

日本知財学会第 10 回年次学術研究発表会 セッションレポート

1. 作成者	知財 PeCo 越智夕芳里 (パナソニック(株)知的財産センター) 綿本肇 (深見特許事務所・弁理士)
2. テーマ	企画セッション 「知財によるベンチャー育成」
3. レポート	<p>基調講演 1 では、金井一頼日本ベンチャー学会会長 (大阪商業大学教授 / 大阪大学名誉教授) から大学発ベンチャーの意義と課題について講演があった。新産業創出プラットフォームの必要性、イノベーションを組み込んだスタートアップ企業を創出する必要性等が説明された。さらに大学発ベンチャーの成功要件としてロールモデル提示による研究者の意識付と短期長期の事業戦略策定、ネットワーク活用による資金・人材調達等が挙げられた。またオープンイノベーションの顕在化と大学の役割等が説明された。</p> <p>基調講演 2 では、寺崎智宏文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課課長補佐から大学発新産業創出拠点プロジェクト (START) について講演があった。この制度では大学発ベンチャーの成功率増加のため、初期から事業プロモーターによる支援が行われていること、さらにポートフォリオ評価の導入、単願での特許出願が多いこと等が説明された。</p> <p>パネルディスカッションでは、最初に、谷正之バイオサイトキャピタル株式会社代表取締役社長からバイオベンチャーの現状、研究開発型ベンチャーが成功する要因、ベンチャー育成に携わった経験に基づく個人的提言が説明された。次に、渡部俊也東京大学先端科学技術研究センター教授 (知財学会副会長・理事) から「大学発ベンチャー 1000 社計画今振り返ってみると」のタイトルで日米比較等を通じて大学発ベンチャーの現状および課題が説明された。最後に、パネリストとして上記各氏に森下竜一大阪大学大学院医学系研究科教授を加えて、パネルディスカッションにて大学発ベンチャーの現状、課題、対応策等が議論された。</p>